

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成21年12月21日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0870200987		
法人名	社会福祉法人 春陽会		
事業所名	グループホーム MAO	ユニット名	2F
所在地	〒319-1223 茨城県日立市みなと町10-10		
自己評価作成日	平成21年8月1日	評価結果 市町村受理日	平成21年12月16日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成21年9月2日	評価確定日	平成21年12月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

建物の1階にはクリニックMAOが併設されており、曜日は限られているが夜間診療を行っている為、夜間の体調不良時には迅速な対応が可能で、本人、家族、職員の安心につながっている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

利用者の体調変化時には、建物の1階にあるクリニックや協力医療機関と連絡を取り対応するなど、連携を図りながら支援をしている。 利用者は地域のふれあいいいききサロンに参加し、そば打ちをするなど地域の人々との交流を楽しみながら暮らしている。
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護に込めた想いを、管理者、職員間で話し合い作成した理念を随時確認し、実践に向けての意識付けを行っている。	全職員で話し合い「本人に寄り添い、その人らしい生活を応援します。優しい言葉かけや親切な対応を心がけ笑顔と暮らしを大切にします。・・・」という地域密着型サービス事業所としての独自の理念を作成している。 理念を常に確認できるようスタッフルームに掲示するとともに、実践にむけて「利用者の得意なことを伸ばしていく」などを心がけて支援している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	花火大会や防災訓練等、ホームでの行事に地域の方を招いている。また、地域の清掃時には参加するだけでなく、1F会議室を休憩所として提供し交流を図っている。	老人クラブが実施している清掃活動に参加し、地域との交流に努めている。 小学生が地域探検授業の一環として事業所に来訪し利用者と交流したり、地域のふれあいいきいきサロンに参加し、そば打ち体験などを楽しんでいる。 花火大会時に観覧場所として事業所を地域住民に開放している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民と入居者の方たちとの交流は、事業所開設以来数回しか行っていないため、認知症の人の十分な理解や、支援の方法を伝えるまでには至っていない。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、議事録は各ユニット入口に配置し、自由に閲覧できるようにしている。会議では参加員の率直な意見や要望を伺い、日々のケア、サービスの向上に努めている。	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、外部評価結果を報告したり、委員から出た意見をもとに近隣のグループホームと意見交換するなど、サービスの質の向上に活かしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催の事業所懇談会や連絡会に出席し情報を得るとともに、地域交流やボランティアの派遣等の相談をしている。月に1回の介護相談員の派遣を受けている。	月1回介護相談員を受け入れるなど、市との関係づくりに努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム玄関は夜間以外は施錠していないが、各ユニットの入り口については、建物の構造上安全確保の観点から施錠している。全職員に身体拘束ゼロへの手引きを配布し、拘束について正しく理解できるように努めている。	職員は身体拘束の弊害を理解するとともに、身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、2階と3階のユニット入り口のすぐ外が階段のため、安全確保という観点からユニット入り口を施錠している。 利用者の状態が安定している場合は、非常口を解錠し踊り場に出られるよう配慮している。	安全確保を図りながら、ユニット入り口を施錠しないケアの取組みについての話し合いが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各ユニットのスタッフルーム内に虐待の主な種類と具体例を掲示し、虐待にあたる行為について確認できるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在まで実施していない。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定時の際は、事業者と家族間で読み合わせを行い、疑問、質問等は都度説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議、面会時等で家族の方の意見や要望を伺っている。また、玄関には意見箱を設置している。	重要事項説明書に事業所や第三者機関の苦情相談受付窓口を明記するとともに玄関に意見箱を設置している。 家族会では自由な話し合いができるよう職員が一定時間席をはずすなど、話し易い場面づくりと雰囲気づくりに努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	介護ミーティングや申し送り時に意見や提案を聞く機会を設け、必要時は管理者、施設長間で検討している。	管理者は月1回のミーティングにおいて、休憩時間のローテーションや夜間の排泄ケアなど職員と話し合う機会を設け、出た意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な人事考課や随時管理者や職員への聞き取りにより、その勤務状況を把握している。また研修参加や資格取得を勧め、レベルアップを応援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修内容を早めに告知するとともに、職員の勤務調整を行うなど、研修を受け易い環境作りをしている。また、研修参加者は介護ミーティングで研修内容を報告し、情報を共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他グループホームとの合同の研修会や講習会に参加している。地域の行事には他のグループホームの入居者、職員を招待して交流の機会を設けている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査時に管理者（ケアマネ）、看護師が本人と面会して、生活面、健康面等の心配事等を傾聴する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申込時に主に管理者（ケアマネ）が本人や家族の状況について傾聴、事例等の説明をして介護へのアドバイスを行う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の状況に応じて、在宅サービスの種類や福祉制度の紹介、グループホームと特養、老健とのサービス内容の違い等を説明している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者のできることできないことを見極めて、清掃、洗濯物たたみ、食事準備等の手伝いをお願いしている。また随時意見や知識の情報交換をして、行事や家事手段の参考にしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	随時家族には本人の生活状況を詳細に報告して、可能な限りサービスの一部は家族に担ってもらっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	旧知の方の面会の受け入れや、家族同行で行き慣れた美容院に定期的に外出する等の機会を設けている。また、随時在宅時の頃の話の聞き、忘れられないように働きかけている。	利用者の馴染みの商店の利用や墓参りの希望があった場合は家族等に連絡して希望が叶うよう支援している。 訪問してきた馴染みの友人には、再訪問を働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話を仲介したり、他入居者の状況を説明することにより、誤解なくお互いを理解し、よりよい関係が構築できるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	希望時には生活相談に応じている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の生活歴を把握するとともに、希望を伺ったり、言葉や表情から推察し、利用者の希望に沿ったサービスを提供できるよう努めている。	「いつまでも自分の足で歩きたい」、「昼食で気の合う利用者の隣に座りたい」、「ストーマの衛生管理をしてほしい」などの思いや意向を、日々の何気ない言葉や表情から把握し記録に残している。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には主に家族にセンター方式の用紙に生活歴を記入していただく。入居後は本人との会話の中で生活歴を確認していく。	/		/	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々では時間の流れに沿った行動の記録以外に、食事、水分、排泄、バイタルチェックに分けて記録を取り、本人の心身状態の確認をしている。定期的にはケアチェックを行い、全体像の把握に努めている。				
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を伺い、介護職、看護職で話し合い、介護計画を作成している。また、個別のノートに日々の申し送り事項を記入、課題の参考としている。				

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の生活状況は時間を追ってアセスメント用紙に記録をして、日々の申し送り時に職員間で情報を共有している。介護計画の課題に沿った記録は、別紙に支援経過として記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に応じ、クリニックMAOでの健診、通院介助、買物の付添、移動美容室の利用等の支援をしている。面会時間を自由にして他、24時間の医療体制により柔軟に支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区長、ボランティア、消防、社協との連携により、防災訓練や地区社協への参加、レク活動の支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望でかかりつけ医を決定している。定期的及び病状に応じての受診時は、家族または職員が付き添い、病状や生活の様子について医師に報告をしている。	家族等と連携を図りながらかかりつけ医への受診支援をしている。家族等が同行した場合は受診結果を聞くとともに、必要に応じて検査結果をコピーさせてもらいファイリングしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の健康状態について、介護職は定期及び随時に看護職に報告、情報を共有している。また、看護職は24時間体制で医療活動の支援をしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のケースワーカーとの情報交換や相談に応じている。また、病状安定後は管理者と看護師が早期に実態調査を行い、退院後のケア内容を検討している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明書の項目の中で「重度化した場合における対応に係る（看取り）指針」を提示、契約時に説明をし、入居者の家族の同意を得ている。	「重度化した場合における対応に係る（看取り）指針」を作成しているが、これまで看取りケアに至る利用者がいなかったことから、看取り介護についての同意書を作成するまでに至っていない。	重度化や終末期のケアに備え、家族等との話し合いを記録する書式の整備など、具体的な取り組みが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命の講習会参加を義務付けている。また、有効期間内であっても、講習会への自主的な参加を勧めている。介護ミーティング時には随時看護師から指導を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施しており、消火訓練については地域の方にも参加していただいで、一緒に行っている。避難経路を各入口とスタッフルームに掲示している。	年2回避難訓練を実施しており、ベッドに仰臥したまま動こうとしない利用者がいたなど、避難訓練で得られた課題を記録している。 地域の人々に呼びかけ一緒に消火訓練を実施しているが、避難訓練に参加を得るまでには至っていない。	災害時に地域の人々の協力が得られるよう、消火訓練だけでなく避難訓練にも参加を呼びかけることを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちの有り様やその場の状況を判断して、プライドやプライバシーに配慮した言葉がけとなるように留意している。記録等は保管場所を決め、個人情報の漏洩に配慮すると共に、個人記録の記入は利用者以外はイニシャルで表記している。	排泄誘導時の言葉かけについて、職員は利用者一人ひとりの人格を傷つけないように話し合っている。 利用者に関する記録等は人目に付かないようスタッフルームに保管し管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉かけの基本は「～しませんか」との表現を原則としている。また、選択の場面を多く持てるような言葉かけの対応を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日程はあるが、一人ひとりの気持ちや体調を尊重して、自己決定した活動が行えるように支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを最優先に、季節や室温に合わせた洋服の組み合わせ等のアドバイスをしている。理容、美容時には本人の好みのヘアスタイルを伝えている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は食事の準備、後片付け等、入居者ができることを見極めて、一人ひとりに合った内容の手伝いをお願いして、一緒に行っている。	通常は食材宅配業者の献立となっているが、手巻き寿司など利用者の希望を取り入れている。 利用者一人ひとりの能力を活かしながら、それぞれの状態に応じて食事の準備や後片付けを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量や食事の好み、量、形態、時間等、食事に関する全体を把握して、おいしく、安全に、過不足のない栄養が摂れるように配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は緑茶でのうがいを励行している。義歯洗浄、歯磨きに対しては、言葉かけや用具のセッティング等、本人の力に応じサポートしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意、便意の訴えには、その都度トイレ誘導を行っている。また、訴えない方や夜間等は排泄のパターンを把握してトイレに誘っている。	排泄チェック表により利用者の排泄パターンを把握し、トイレ誘導をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や影響について、申し送り時に随時情報を交換している。乳製品や腸内菌のバランスを保つ食品や飲料の提供や体操に誘い、便秘の予防に努めている。便秘症の方は医師の指示により、便秘薬を用い症状の緩和を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時間は基本的には午後となっているが、本人の希望や予定に応じ、入浴日の変更や午前中の中の入浴も行っている。	週2回午後の入浴と決っているが、利用者の状況に応じてシャワー浴や清拭による支援をしている。職員の都合が優先され、利用者の希望にそった入浴支援ができない場合がある。	入浴を通して得られる利用者の力の発揮などを認識し、利用者の希望にそった入浴支援について職員の話し合いが望まれる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や日々の行動に合わせて、本人のペースで休息したり、睡眠が取れるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を入居者のアセスメント表に綴じ、薬の名前、用法、用量、目的、副作用について、常時職員全員が確認できる状態になっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かした役割（清掃、洗濯、食事の準備等）や趣味を持って過ごせるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物、散歩、ドライブ等、本人の希望や天候を考慮して柔軟に対応している。また、年間行事の外出先として希望の場所を取り入れている。更には本人の意向を家族に伝え、外出の機会をもてるようにしている。	晴れた日は日常的に近くの公園へ散歩したり、踊り場で日光浴などを行っている。 2週間から3週間に1回、近くの公園への散歩を兼ねて買い物に出かけている。 病院や理美容院への外出の際に、レストランで外食を楽しむなどの工夫をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額の金額は個人管理として本人が所持、外出時等に使っている。レジでは職員が付き添い、本人に支払いを行ってもらう。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にはいつでも事務所内の電話を利用することができます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、花、カレンダー、時計、季節に合った飾り付けを行い、居心地良く生活できる空間作りをしている。	共用空間は利用者の習字や絵画の作品を飾るなどの工夫がされているが、廊下の照明が消されており薄暗い状況となっている。 食堂は東向きで明るさは十分あるが、季節感を出すまでには至っていない。	食堂兼談話室に季節の花などを配置するとともに壁面飾りを取り入れるなど、季節が感じられるよう工夫することが望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール入口にソファを設置したり、食事時間以外のテーブルの席は自由に座ってもらうことにより、個人や仲間同士の思い思いの場となっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた好みの品を持って来て頂いたり、好きな花を飾ったり、写真を貼ったりと居心地の良いなじみの空間となるように配慮、家族からの協力も得ている。	居室の入り口に利用者に選んでもらった暖簾を掛けている。 職員は家族等の写真や使い慣れた衣装ケース、箆箆を持ち込んでもらったり、畳生活が好きな利用者にはフローリングの上に畳を敷くなど、居心地の良い居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有場所には手すりを設置している。居室内は本人の希望を取り入れた上で安全面の確保や身体機能が活かせるように家具の配置を工夫している。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)</p>	<p>1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある ○ 3, たまに 4, ほとんどない</p>
65	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)</p>	<p>1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない</p>
66	<p>職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)</p>	<p>○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない</p>
67	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。</p>	<p>○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない</p>
68	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。</p>	<p>○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない</p>

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム MAO

作成日 平成21年12月15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	安全確保を図りながら、ユニット入り口を施錠しないケアの取り組みについての話し合いが望まれる。	施錠され閉じ込められている感覚のない、自由な空間で暮らしていただく。	家族会や運営推進会議で議題として取り上げ、ご家族や他の施設との情報交換をし、職員とより良い方法を模索している。	—
2	35	災害時に地域の人々の協力が得られるように、消火訓練だけでなく避難訓練にも参加を呼びかけることを期待する。	本当の意味で地域の一員としてとけ込み、協力し合える環境で暮らしていただく。	次回防災訓練に向け、地域への火災報知の仕方や入室方法、地域消防団との相互協力の仕方などを模索検討している。	平成22年3月
3	45	入浴を通して得られる利用者の力の発揮など認識し、利用者の希望にそった入浴支援について職員の話合いが望まれる。	希望の日、希望の時間に入浴できる環境を整え、快適に暮らしていただく。	入浴時間の延長を行うなどして、多い時は週に4～5回の入浴できるようになっているほか、個々の入浴時間の延長なども実現している。	達成済み
4	52	食堂兼談話室に季節の花などを配置したり、壁面飾りを取り入れるなど、季節が感じられるよう工夫することが望まれる。	限られた空間の中でも、常に季節を感じながら暮らしていただく。	壁面飾りに季節を感じられる装飾を施したり生花を飾るなど、居ながらにして季節の移り変わりを感じられる空間作りを実現している。	達成済み
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。